

愛知学院大短期大学部（名古屋市千種区）が、中部地方で初めてとなる歯科衛生士のリカレント教育（学び直し）を始めた。いったん離職して復職を望む人や、より専門的な知識を求める人など、20～50代の約30人が受講している。（芦原千晶）

## 愛知学院大短大部「研修センター」始動

### 高齢者の口腔ケア貢献めざす

高齢化で口腔ケアの重要性が増す中、歯科衛生士のここ数年の求人倍率は約二十倍で、慢性的に不足している。一方、歯科衛生士の資格を持つ人のうち、実際に働いているのは五割弱で、離職者の復職支援や離職防止が課題となっていた。

同短期大学部は昨年創立70年を迎える歯科衛生士教育でも五十年以上の歴史があり、復職支援などを促す国の事業の実施団体に選ばれた。昨年10月に「歯科衛生士リカレント研修センター」を設け、口腔ケアを学び直すコースと、高齢者への高度なケアが学べるコースを開講。定員の計三千人に対し、八十人の応募が

# 歯科衛生士の復職支援

あつたという。

センター副所長の高阪利美・学長補佐は「高齢者は特に、歯を健康に保つことで病気が予防できる。愛知の歯科衛生士は全国的に少なく、リカレント教育での数を増やし、地域貢献したい」と話した。受講料は原則無料で、実技も学べる。期間はおよそ三ヶ月で十日前後の講習がある。二〇二一年度からも年に二回実施する予定。

歯科衛生士への復職などを支援するリカレント教育の授業＝名古屋市千種区の愛知学院大  
短期大学部で

